

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだよ

発行 麻生区クールアース推進委員会

2019年3月 vol.40

麻生区役所太陽光発電設備設置 16周年記念イベント

2019年1月19日(土)開催

未来をひらく自然エネルギー PART2

～映画上映のつどい～

今年区役所屋上に太陽光発電設備を設置して16年になり、
 昨年の記念イベント「未来をひらく自然エネルギー」に引き続き、
 そのPART2として、自然エネルギーを活用して国内4地域の再生に取り組む人々を描いた映画の観賞
 と川崎市内の取組事例を紹介して頂くことにしました。今年も区内10市民団体のご協力を得て多くの
 方々のご参加を頂き、大変好評なイベントになりました。



目次

- ・麻生区役所太陽光発電設備設置 16周年記念イベント・・・・・・・・・・・・・1
- ・自然エネルギー施設バス見学会・・・・・・・・・・・・・2
- ・「王禅寺エコ暮らし環境館等に係る意見交換会」に参加しています！・・・・・・・・・・・・・3
- ・世界で進むエネルギー転換と脱炭素・・・・・・・・・・・・・3
- ・あさお区民まつりに参加・・・・・・・・・・・・・4
- ・麻生区クールアース推進委員会 2018年度の活動・・・・・・・・・・・・・4
- ・編集後記・・・・・・・・・・・・・4



1. 映画「おだやかな革命」

この映画を作るに当たって監督の渡辺智史さんは「お金だけではない豊かさ、自然や本来大切にしてきた本当の豊かさに多くの人々が気づき始めている。それを穏やかに描きたかった。これからどういう社会を展望するのか、日本のローカルな場所から問いかけたい」と語った。高齢化や過疎化が進み多くの課題を抱えた地域で、これからの暮らしを自分たちの手で作り出し、本当の豊かさを取り戻していく人々の姿を描いたこのドキュメンタリー映画のあらすじは次のようなものです。

2011年3月11日、東日本大震災の地震動と津波により東京電力福島第一原子力発電所では未曾有の重大事故が発生した。そして、事故後に福島県喜多方市の酒蔵会社のご当主が立ち上げた太陽光による電力会社「会津電力」。また、原発事故による放射能汚染で居住制限区域となった福島県飯館村の畜産農家のご当主が「会津電力」の動きに共鳴して「飯館電力」を立ち上げるようになった。

さらに、秋田県にかほ市では、首都圏の生活クラブが中心となって、首都圏の消費者、地元農家と食品加工業者が連携して推し進めた市民風車“夢風”を起点にコミュニティが膨らんでいる。

岐阜県郡上市の石徹白地区では、100世帯全戸が集落の存続のために、農業用水を活用して自力で小水力発電事業を立ち上げ、新住民を呼び込んでいる。

岡山県西栗倉村では、未だかつてない人口減少に直面しながら、今まで見捨てられていた森の間伐材、森林資源を見直したビジネスを立ち上げた。自然、人、地域と向き合い、高度経済成長社会の中で見失われた「豊かさ」とは何かを問いつつ地域再生に取り組んでいた。

文化人類学者辻真一氏は、「この映画は、自分はこれで幸せかという問いがちやんと真ん中にある。これ

は革命と言ってもいい・・・」と言っている。

映画のナレーターを務めた女優の鶴田真由さんは、「この映画には静かに力強く、ふつふつと湧き上がってくる力があります。その力はあまりにも美しく、切なく、愛に満ちていて、胸が締め付けられそうにもなります・・・」と述べている。

2. 川崎市内の事例紹介

川崎市で自然エネルギーを活用した取組事例を川崎地域エネルギー市民協議会代表竹井斎氏にお話して頂いた。

再生可能エネルギーによる創エネルギー、省エネルギー、畜エネルギーを推進するために活動する市民が連携・共同し、災害に強い、エネルギーの地産地消、地域分散型の街づくりを推進する目的で活動する様々な団体について説明。環境課題をつなぐための川崎フューチャー・ネットワークのこと。また、再生可能エネルギーを体験する見学ツアーや木質バイオマス体験。かわさき市民共同おひさまプロジェクトの活動紹介(市民の寄付や助成金で設置した川崎市国際交流センターの太陽光発電や麻生区片平にある川崎フロンターレ練習場のクラブハウスに設置された太陽熱温水器)や多摩川の取水堰の段差を利用した小水力発電の計画、それぞれの団体が活動仲間を募集していることなど。(岩田輝夫記)



自然エネルギー施設バス見学会

エネルギーの地域自給～小田原市における取り組み～



自然エネルギー先端施設などを市民と共に見学し、理解を深めてきました。今年度は小田原市を訪問し、企業・行政・市民が連携して自然エネルギーの普及に取り組んでいる施設、中でも拠点となっている鈴廣かまぼこの里を中心に見学しました。

11月9日（金）は施設見学会としてはめずらしく朝から雨となった。予定していた小水力発電の遺構の見学は、滑りやすい山道を歩くため中止とした。さらに下見をしていた小田原市桑原のソーラーシェアリングが先の台風でソーラーパネルが壊れたということで、下曽我にあるソーラーシェアリングに変更することになった。しかし参加者のアンケートでも大半の方から「大変勉強になり、参考になった」との評価を頂いているようにとても有意義な行事になった。

行きのバスで、当委員会の活動を紹介後、参加者全員から自己紹介をして頂いた。6月に行った「あさお自然エネルギー学校」で、ご講演を頂いた今回の見学先の鈴廣かまぼこ副社長の鈴木悌介氏が使用された資料に加えて、当委員会の伊藤委員が作成した資料を元に小田原市のエネルギーの地産地消の取組や日本のエネルギーの現状について説明を受けた。

鈴廣かまぼこ本社ビルに到着後、かまぼこ博物館3階で鈴木悌介氏から「かまぼこの話」、「なぜかまぼこ屋がエネルギーに取り組むのか」、「持続可能な経済」、「持続可能なエネルギー」などについてお話を頂いた。

続いて本館ゼロエネルギーハウスを興味深く見学、さらにレストランの設備、空調が地中熱・地下水熱を利用している装置の説明、さらに発電機やPAジェネレーター、LPGボンベ設置は、市との防災協定で災害時に市民の避難所になっているなどの説明を聞いた。

次に、小田原ガス本社に移動し、3階講堂で小田原ガス・湘南電力社長原正樹氏から「行政・地元企業・市民との連携による地域エネルギー事業への取組」と

題して、東日本大震災を契機に官民連携による環境保全とエネルギーの地産地消への取組をスタートさせ、ほうとくエネルギー・湘南電力も民間の地産地消の形で誕生させたこと、そして会社の現状について報告を聞いた。その後の質疑で興味深かったのは、再生可能エネルギーとして小田原で一番可能性のあるのは箱根の地熱なのだが、箱根の皆さんは温泉の源泉に手を付けられることを嫌がることで、今のところ太陽光の他に再生可能エネルギーを調達する術が見当たらないということであった。このことは小田原に限らず日本全国で地熱エネルギーの可能性の高い所のほとんどは国立公園内ということなので、今後の国内での地熱エネルギーの開発で共通する大きな課題と思われる。

さらに、かなでこファーム代表理事小山田大和氏から、原発事故を契機に環境やエネルギーに関心をもち始め、エネルギーを作る会社を立ち上げたこと。社会での高齢化が進み日本全国で耕作放棄地が増えていること。結果農業の衰退となれば国は成り立たない。このような危機感から自分で農業を始めようと思い、ソーラーシェアリングを始めたことなどの話があった。下曽我にあるソーラーシェアリングを見学した時、当初の予定より1.5倍の収益があったとの明るい話が聴かれた。

帰路のバスでは、伊藤委員からエネルギーについての後半の説明を行った。

（岩田輝夫記）



上：鈴廣かまぼこ本社ビル前にて。
左：鈴廣かまぼこ本社ビル全景
右上：鈴廣かまぼこ副社長鈴木悌介氏の講演
右下：下曽我ソーラーシェアリング見学

「王禅寺エコ暮らし環境館等に係る意見交換会」に参加しています！

王禅寺エコ暮らし環境館は、2016年4月にオープンして本年3月で3年ほどが経過します。来場者は2019年1月25日までに38613名。大変良く利用されていることがわかります。主に、市内小学校4年生対象に、隣接の王禅寺処理センターと資源化処理施設とあわせて社会科見学として活用されています。また館の独自企画では、夏休み（8月初旬）、クリスマス（12月初旬）、春休み（3月下旬）の年に3回、親子を対象に、主にゴミ減量とリユース、リサイクルの啓発のために工夫を凝らした工作や見学会などが開催されてきました。

当委員会は、2012年からの「リサイクルパークあさおに係る住民懇談会」に近隣住民の方々と共に参加しました。館の展示内容、屋上庭園の樹木選定や再生可能エネルギー活用設備、かわるんパークの緑化内容などに対して意見が求められ、協議の結果、色々のとこ

ろに市民の意見が反映されました。まさにこの施設は市と市民の協働で作らされたと言えます。

完成後、会の名称は「懇談会」から「意見交換会」と変更がありましたが、近くの町内会の方々とご一緒に環境館運営等に関して引き続き意見交換をしています。市民利用施設には市民目線が重要です。これからもより充実した啓発施設として活用されるよう、見守っていきたいと思います。
(飯田和子記)



屋上庭園のソーラー花時計。
上方の太陽光パネルで発電した電気で時計の針が動く



COOL CHOICE かわさきセミナーⅡ 世界で進むエネルギー転換と脱炭素

2019年1月29日 主催：川崎市・川崎市地球温暖化防止活動推進センター

講師：大林ミカ氏（自然エネルギー財団事務局長）

当委員会はCC川崎エコ会議理事会メンバーです。講演会には3名が参加しました。

パリ協定を踏まえた脱炭素の対策が求められる中、世界では自然エネルギーが著しく拡大し、コストも大幅に低下して既に化石燃料に対する競争力を持つようになっていくことが講演を聞いてよくわかった。

自然エネルギー財団は、2011年の原発事故に心を痛めたソフトバンクの孫正義氏が、これからのエネルギーは自然エネルギーしかないとして私財を投じて設立し、現在も会長を務める。

- ・ 各国の太陽光発電、風力発電の導入状況が説明され、中国が太陽光で世界の半分以上、風力発電でも約半分を導入していることが説明された。
- ・ 原子力発電と自然エネルギーの普及状況では、原子力は頭打ちで、風力発電は2015年に原子力発

電を追い越し、太陽光発電は2017年にほぼ同量になる。

- ・ 各国の2030年・2050年温室効果ガス削減目標、電力部門の自然エネルギー化目標、石炭発電の削減目標が下表のように示された。2030年には電力の40%以上を自然エネルギーで供給するのが先進国の標準的目標になっている。
- ・ 日本における発電電力量は、2011年の東日本大震災と福島原発事故を契機に省エネ、節電などで電力使用量を削減した結果、減少してきている。つまり、いかに日本の省電力化が進んでいるかを示している。
- ・ 日本に於ける太陽光発電設備の施工労働賃金

(2015年初頭)は、東京でミュンヘン(独)の約2倍であり、平均施工時間も2倍から7倍である。日本の太陽光設置コスト高の原因がここにあると言われている。改善の余地が非常に大である。

(山下宏子・出口博一記)

国や地域	2030年削減目標 (90年比)	2050年削減目標 (90年比)	自然エネ目標(電力部門)		石炭発電目標
			2030年	2050年	
ドイツ	55%削減(35年比)	80-95%削減	65%2030年 (2018年閣内合意)	80%	段階的削減
イギリス	57%(2032年)	80%以上削減	30%2020年		ゼロ2025年
フランス	40%	75%削減	40%2030年		ゼロ2022年
EU	40%	80-95%削減	60-65%以上 2030年	60-97%	ゼロ2030年
アメリカ	26-28%(05年比)	80%以上削減 (2005年比)	加州50%2030年	55-65%	10-33%火力全体
日本	18%/25.4%(90比/05比)	80%削減 (基準年不明)	22-24%2030年		26%2030年



あさお区民まつりに参加 2018年10月14日(日)

今年のあさお区民まつりでは、太陽光は少し弱かったものの、とてもいい環境の中で参加することができました。その中でブースを訪れてくださったお子さんたちが自然エネルギーを利用したおもちゃで楽しそうに遊んでいる姿が印象的でした。

ことしのブースの場所は、昨年とは異なり、コーナーではありませんでした。そこでテーブルをブースのテントの中でL字型に組み、手回し発電機、自然光を利用したソーラーカー、観覧車その他を展示しました。またブースの前面にはソーラークッカーの代わりにソーラーパネルを展示しました。立ち寄っていただいた方々の人数は昨年と同じくらいでした。

お子様にはやはりおもちゃが好評であり、小さな子どもたちが親御さんといっしょになって夢中で手回し発電機を回し、スイッチを切り替えてLED電球または白熱電球を点灯させていました。エネルギー消費量の違いを実感できたと思われまます。また、テントの中に入って色々なおもちゃに大変興味を示していたお子様もいました。次世代を担うお子様に楽しんでいた

だき、おもちゃを通して自然エネルギーを利用できることを体感していただけました。

区役所屋上設置の太陽光発電設備の説明会も午前11時半と午後1時の2回行いました。午前の部は10人弱、午後の部は3～4人の方々が説明会に参加しました。こ

こでもご家族のお子様にごこの設備を見学していただけたのは大きな収穫でした。

(米倉広美記)



麻生区クールアース推進委員会 2018年度の活動

2018年	6月17日	川崎市地域環境リーダー育成講座に協力:活動紹介と屋上のソーラーパネルの見学
	6月23日	あさお自然エネルギー学校 「地域を元気にする自然エネルギー～小田原市の先進的な取り組みに学ぶ～」 講師:鈴廣かまぼこ(株)代表取締役副社長 鈴木悌介氏 小田原市環境部エネルギー政策推進課 穂田高範氏
	7月23日	出前環境講座(グループ「あ・そうかい」での講義)
	8月1日	夏休み環境イベント「ソーラークッカーを作ろう」
	10月14日	あさお区民まつり出展
	11月9日	自然エネルギー施設バス見学会 「エネルギーの地域自給 小田原市における取り組み」
	12月20日～26日	自然エネルギーイルミネーション:麻生区役所2階ロビー
	2019年	1月19日
2月23日		2019里山フォーラムin麻生での出展:委員会紹介ポスター展示 (2月23日～3月13日は麻生市民館オープンスペースで展示)

編集後記

2019年1月29日付朝日新聞朝刊は1面と39面に、「太陽光パネルの設置形態によっては延焼のリスク」を報じた。直近10年間で11万棟の“屋根と一体型”で間に不燃材のない場合に、100件以上のトラブルが発生し、7件で延焼があったという。分離型でも小動物の配線囓りや落雷による漏電スパークが落葉に着

火、またパワーコンディショナーの施工不良、水や小動物の侵入などによる発火も起きている。安全な装置へと早急な改良を望むと共に、異常への察知や定期点検で安全性を担保する意識を共有していきたい。(児嶋脩記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 岩田輝夫)

編集担当 : 児嶋脩、出口博一、林恵美

問合せ先 : 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺1-5-1

Tel 044-965-5370 Fax 044-965-5201

発行日 : 2019年3月10日

